



午前9時55分、無事着岸した「日本丸」

自信を胸にと回り成長



実習生たち(前列右から占部さん、金子さん、町谷さん、北川さん、後列右から奈須さん、清井さん、岡さん、山本さん)



実習生たち(右から村林さん、田崎さん、竹中さん、小嶋さん)

帆船「日本丸」が遠洋航海終え無事帰港

海技教育機構の練習帆船「日本丸」が、2月8日、遠洋航海を終えて東京港晴海ふ頭へ帰港した。同船には全国5つの商船系高等専門学校(富山、鳥羽、弓削、広島、大島)の4年生110名(うち女子11名)が乗船。昨年12月10日に横浜を出港し、ハワイ・カウアイ島のナウリイ、オアフ島のホノルルに寄港して、この日、午前9時55分、無事着岸した。実習生は昨年10月に乗船し、国内航路での訓練を経て遠洋航海に臨んだ。晴海に入港した「日本丸」の甲板には北太平洋の荒波を乗り越え、ひと回り成長した実習生の姿があった。

自然に対し謙虚に

ハワイでは盛大な歓迎も

2月8日、快晴に恵まれ、晴す」と安どの表情を浮かべた。往路では順調に帆走できたが、ラニニヤで謙虚であることを実習生に見せた。船体には長が「大きなケガや事故現象の影響で貿易風が強く、復路では機走に切り替えた。無理をすれば、27年ぶりに寄港したナウリイでは、厳しい航海をもなく、全員無事に帰国した」と奥船長。物語る。しかし、甲板に

海技教育機構の練習帆船「日本丸」が、2月8日、遠洋航海を終えて東京港晴海ふ頭へ帰港した。同船には全国5つの商船系高等専門学校(富山、鳥羽、弓削、広島、大島)の4年生110名(うち女子11名)が乗船。昨年12月10日に横浜を出港し、ハワイ・カウアイ島のナウリイ、オアフ島のホノルルに寄港して、この日、午前9時55分、無事着岸した。実習生は昨年10月に乗船し、国内航路での訓練を経て遠洋航海に臨んだ。晴海に入港した「日本丸」の甲板には北太平洋の荒波を乗り越え、ひと回り成長した実習生の姿があった。



奥 知樹船長



山本 訓史機関長

ウリイウリイでは日系人を中心に盛大な歓迎を受けた。またホノルルでは海洋教育アカデミーの学生や大学生などが見学に訪れ、実習生らと交流した。交流を経験し、他者のために役に立ちたいという思いや、船は物を運ぶと同時に人の心もつなぐという意識が育った。海上志向も高まりました」と奥船長は成果を語った。12月10日の出航式には石井国交相が臨席し実習生らを激励した。奥船長は早速国土交通省を訪ね、石井大臣に帰国の報告をするという。

一方、帆走から機走へという奥船長の決断を陰で支えたのが山本訓史機関長だ。「燃料は十分でし、いつでも機関を動かせる」と船長に言われてありました」と山本機関長が笑顔で語った。今回は各校から3名ずつ15名の機関科実習生が乗船。「少人数で濃密な訓練ができました。整備作業も習熟し、自分の言葉で報告できるようになった。今後の座学でさらに理解が進むと思いたす。みな、エンジンアークリを持ち頑張った(北川剛太郎さん・広島)」「船酔いも後半は慣れた。頑張れたのは仲間がで充実した訓練だった(奈須康起さん・大島)」

「苦しいこともあったけど、学校の代表という誇りを持ち頑張った(北川剛太郎さん・広島)」「船酔いも後半は慣れた。頑張れたのは仲間がで充実した訓練だった(奈須康起さん・大島)」

「年が明けた瞬間は当直中。忘れられない経験になった」(山本一真さん・広島)

「海水風呂はきつかったけど、濃密な訓練ができた達成感を感じている」(金子和樹さん・弓削)

「機関部の乗組員の方が優しく、アットホームで充実した訓練だった」(奈須康起さん・大島)

「当直で寝不足。誰も下船しなかったで負けられないと頑張った(占部大貴さん・弓削)」

「座学と実機との違いに戸惑ったが、理解できたときはうれしかった」(岡秀亮さん・大島)

「機関科実習生が少なくハードな訓練だったが整備作業が理解できるようになった」(町谷拓飛さん・鳥羽)

「外航船員になりたくて商船学校に入学。遠洋航海でその気持ちが強くなった」(村林伊織さん・広島)

編集/ト

中華屋でよく会うスナックのママがぼったり来なくなった。今の店員が気に入らないからだと言連が推測していた。前の店員は愛想がよく対応も柔軟だった。今の人は始終不機嫌でサービス精神ゼロ。ママは「ウーロンハイ薄め」とか「レバ炒めニンニク効かせて」などと注文にひねりが加わるし軽口が好きだから、突っ慥い食な対応をされて立腹したのである▼言われたことだけを程々にやれば良いというのを雇われ根性という。自分の担当外のことはどうでもいいというのを部署主義という。こういう社員が増えると会社は傾く。など偉そうに語る資格は編集子にはない。若い頃自分がそうだったからだ。クビにならなかったのは先輩や上司が辛抱強く見守ってくれたおかげ▼映画「生きる」(黒澤明監督、昭和27年)は、無気力な役所の課長(志村喬)が、ガンで余命いくばくもないと知った時、人生の充実を求めて雇われ根性と部署主義の厚い壁を打ち破って住民待望の公園を作り上げる話。プランコで「いのち短し」と歌いながら死んでいった彼に住民は泣いた▼仕事の充実感

は山と谷を乗り越える中にあると、今は思う。

「海の日」を7月20日に

7月20日の「海の日」の国民の祝日化は、海事関係者が中心となり1,038万人もの署名を集め、さらに2,300近い全国自治体の議会の決議を得て、幅広い国民運動の盛り上がりの結果、平成8年に実現したものです。

7月20日が「海の日」にされた本来の趣旨を思い、「海洋国家日本」の礎の日として、祝日である「海の日」を7月20日にしましょう。

(公財)日本海事広報協会



「海の日」を7月20日に

7月20日の「海の日」の国民の祝日化は、海事関係者が中心となり1,038万人もの署名を集め、さらに2,300近い全国自治体の議会の決議を得て、幅広い国民運動の盛り上がりの結果、平成8年に実現したものです。

7月20日が「海の日」にされた本来の趣旨を思い、「海洋国家日本」の礎の日として、祝日である「海の日」を7月20日にしましょう。

(公財)日本海事広報協会